指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市将監児童センター
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
3 指定期間	令和4年4月1日~令和9年3月31日
4 施設の利用状 況	《利用者数》 令和6年度 23,068人(前年度比 112.7%) 令和5年度 20,471人 令和4年度 19,687人 《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・指定管理者に支払った費用 34,261千円 (28,023千円) ・その他市が負担した費用 0千円 (0千円) 《収入》 0千円 (0千円) ・その他収入 0千円 (0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童センター運営委員会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価(モニタリングシートの結果によって評価)			
評価分野	所見	評価	
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33	
Ⅲ 施設の運営管 理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	31/31	
Ⅲ 施設・設備の Ⅲ 維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や 鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組み も実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24	
IV サービスの質 の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28	
v 施設固有の基 **	児童クラブにおいては、こども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。地域との交流事業においては、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	19/19	
	1/2		

三 評価総括

《指定管理者(公益財団法人仙台ひと・まち交流財団)による自己評価》

児童健全育成事業で開催した「児童センターまつり」では、こどもスタッフが遊びのコーナーを計画・運営、さらに中・高校生もボランティアで活動し、地域の方々に活躍の様子を発信しました。また「ダンスクラブ」では長期間の練習をとおして交友を深めながら、精一杯ダンスを披露しました。「絵本のひろば」や「おりがみひろば」また「お正月あそびを楽しもう」では地域の方々や将監児童館と連携・協力し、小学生と地域の方々と交流を図ることができました。

子育て家庭支援事業の「ころころたいむ」と「とことこたいむ」では、参加しやすいよう企画して、乳幼児同士の異年齢交流の促進につながりました。また保護者向けの「リフレッシュタイム」では、ZUMBAやヨガ、バランスボール等をとおして、心身のリフレッシュにつながりました。「のびのびらんど」では普段遊びに加え、月1回特別感のある遊具や遊びを提供したことで、充実を図りました。地域交流推進事業では「ふれ・ミーおはなし会」に参加し、また「ちびっこえんにちごっこ」では小学生スタッフが乳幼児向けの縁日のコーナーを企画・運営を行うなど、こどもたちが地域の一員として活躍できました。

「ドキドキタイム」では、七夕行事や子育て勉強会等で将監地区の3児童館が連携し、子育て支援を推進しました。「ペタンク交流会」では競技しながら地域団体の方々と小学生が交流を深めました。

放課後児童健全育成事業では、こどもたちが遊びへの意見を出し合い、新たな遊びを考案し工夫して遊ぶ機会が増えました。また、「委員会活動」では、こどもたちが自発的に館内放送や運動遊びの企画や行事運営、「帰りの会」では、こどもたちが司会や特技発表を行うなど、自発的な運営により、こどもたちの活躍の場となりました。

来年度は、さらにこどもたちの自主性を発揮できるよう取り組んでまいります。

《施設設置者(仙台市)による評価》

健全育成事業においては、児童館便りとは別に、小学生に特化した内容で「児童センターからのお知らせ」を作成して、小学校を通して全戸配布し自由来館の利用促進に努めている。また、「将監児童センター活躍隊」として社会福祉協議会や近隣の中学校2校に夏休み中のボランティアを募集し、中学生が地域貢献や地域で活躍できる場を提供している。活動を通して、児童館の遊びの伝承や小学生との異学年交流が図られると共に、中学生が自己発揮しながら自己有用感を得られる取り組みとなっている。

子育て家庭支援事業においては、保護者からの希望を受けて新たにヨガやバランスボール、ZUMBA等心身のリフレッシュのための「リフレッシュタイム」や、お茶を飲みながら保護者同士が語り合える「子育てサロン」を新たに実施した。また、親子のふれあい遊びや季節の工作や行事、近隣の保育施設の紹介など、地域と連携しながら多彩なプログラムを提供しており、関係機関と連携しながら地域が一体となってこどもと子育て家庭を支援する環境作りに努めている。地域交流推進事業においては、社会福祉協議会が実施している「ふれ・ミーお話会」に、例年こども達が聞き手として参加していたが、令和6年度は読み手として、乳幼児親子や小学生、地域の方に読み聞かせを行い好評を得ている。「将監ふるさとマッピング」では放課後子ども教室と連携して地域の施設を訪問したり、公園の樹木プレート制作をするなど、地域交流や世代間交流を図りながら、活動を通して自主性や自己肯定感を育んでいる。

放課後児童健全育成事業においては、こども達の意見を反映させて、放送・体育・イベントの委員会活動を取り入れ、3年生以上のこども達が委員会活動を通して児童館運営に関われる機会となっている。また、遊びのリクエストボックスを設けて、日々の遊びについてもこども達の意見を反映させ、主体性や自主性を育む支援を行っている。保護者懇談会後に、親子でテーブルゲーム大会を実施し、児童館での生活や遊び、こどもの姿の共有を図ったことで、土曜日の自由来館の利用に繋がった。

総合評価

S

四 その他特記事項(上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する)

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課